

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム関前

(ユニット名)

あこう

記入者(管理者)

氏名

齋藤 知美

評価完了日

平成 20 年 7 月 24 日

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価)		
			職員全員参加のカンファレンスにて、職員に案をだしてもらい、全員一致の元、理念を作成した。		
			(外部評価)		
			海と山に囲まれた事業所では、「自然とのふれあいを大切に楽しく安心して生活できるよう」又、「ご本人のできる力を活かせる」支援に取り組むための理念を作られている。		さらに、貴事業所が地域密着型の公的介護サービス事業所として、どのようなことを目指していくのかということについても、この機会に話し合ってみてはどうだろうか。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価)		
			玄関など、分かりやすい場所に掲示している。また毎朝の朝礼にて職員全員で唱和している。		
			(外部評価)		
			毎月カンファレンス時、理念に沿ったケアが実践できるよう話し合われている。		
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価)		
			玄関などの分かりやすい場所に掲示し、職員はもとより家族や訪問者などにも分かるようにしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩や地域行事では声を掛けて頂くが、訪問や立ち寄るまでには至っていない。		
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 自治会、老人会への参加は検討中。行事、地域参加に声を掛けて頂く度、積極的に参加している。 (外部評価) 散歩時、地域の方とあいさつを交わしたり、声をかけ合っておられる。近くにある社協支援ハウス・デイサービス利用者との交流や、村の文化祭・小学校の運動会・祭り等にも出かけておられる。		事業所では、さらに地域の方々と交流する機会を増やしていきたいと考えておられた。婦人会や老人会・小学生等との交流等、利用者の生活が広げられるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) グループホーム周辺の草取りなど、出来る範囲で取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 去年の外部評価後に、職員で話し合い、改善出来ることはすぐに改善し、困難な所は経営者に掛け合った。 (外部評価) カンファレンス時、職員で自己評価の数項目について話し合われた。職員の意見を取り入れ、管理者が自己評価を作成された。前回の評価結果を受けて、介護計画の早期見直しや、運営推進会議のメンバーを増やす努力をされた。		さらに、サービス評価の仕組みを貴事業所の質の向上に活かしていかれてほしい。事業所自身の自己評価に取り組む際の気付きは、ケアの質向上への起点にもなる。評価結果や家族アンケート等も活かして、取り組みを工夫されてみてほしい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)		
			最近では近隣の福祉センターの相談員もメンバーになり、福祉センターとの連携も図っている。メンバーはもう少し、地域住民の参加が必要かと思われる。		
			(外部評価)		
			会議では利用者の状況や事故の報告等をされたり、行事計画や緊急体制についても話し合われている。会議の回を重ね、出席いただいている社協支援ハウスの担当者の方と関係が深まってきた。		
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価)		
			運営推進会議以外では難し面あり。理解を得られるよう、働きかけがさらに必要。		
			(外部評価)		
			「119番通報訓練マニュアル」を消防署の方に作っていただいている。「事業所で行う行事の参加を呼びかける際には、町内放送を使用してはどうか」と提案してくださっている。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価)		
			研修参加を検討中。今までに必要な利用者はおらず。		
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	(自己評価)		
			研修参加を検討中。またカンファレンスや、朝礼などで、職員の意識付けに努めている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時にはしっかりと時間をとり、話しを聞くようにしている。		
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日々の生活の中で、利用者と積極的に会話をして聞くようにしている。また管理者にすぐに報告してもらい、経営者にも報告している。		
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 日々の生活の様子を、請求書と一緒に送付している。また、利用者に変化があり、受診したときなどにも必ず電話連絡をしている。		
			(外部評価) 日々の暮らしぶりは、毎月、便りでご家族に報告されている。玄関の掲示板や居間には、利用者の日々の様子の写真を掲示されている。		今後、ご家族来訪時には、利用者と一緒に写真を撮り、居室に掲示することを考えておられた。又、事業所の取り組みをさらにご家族に知っていただけるよう、事業所便りの発行を計画されていた。
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設置し、意見を求めている。また、面会時などにも直接聞くようにしている。また、面会が難しい方には電話連絡時に聞くようにしている。		
			(外部評価) ご家族の来訪時、意見や苦情等はないか聞くようにされている。		さらに、家族会の開催や行事へのお誘い等、ご家族同士が交流する機会作り等も、すすめてみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の業務などで聞くようにしている。またカンファレンスでは、各ユニットの職員全員参加として、全員で話せる機会を持っている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) その都度、職員に声を掛け調整している。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 法人命令にて、難しい面あり。またダメージを防ぐように、声掛け等は十分に行っている (外部評価) 法人内の異動があった場合、管理者やリーダーが業務やケアについて指導されている。又、先輩職員が新人職員にアドバイスをされている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内では、月に1回行っている。また、法人外での研修も、良い研修があれば参加するようにしている。 (外部評価) 法人内研修には、管理者と一名の職員が参加されている。		外部研修受講の他、事業所内でも勉強する機会を増やす等、職員個々のレベルアップから、貴事業所のさらなる質の向上を目指してかれることが期待される。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)		
			近隣の福祉センターとの連携をとり、行事参加などで一緒に過ごす機会を増やしている。勉強会等には至っておらず。		
			(外部評価)		
			近くにある社協の支援ハウスとの交流や、県外の法人内グループホーム・デイサービスとの交流をされている。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価)		
			日々の業務の中、または勤務外でも話をじっくり聞ける機会を設けている。		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価)		
			管理者が現場に入り、状況を把握する。その状況を経営者に報告している。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価)		
			初回面接は必ず行い、話をじっくり聞くようにしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 初回面接時には、家族にも付き添って貰うようにしている。付き添いが難しい場合には電話連絡等で聞くようにしている。		
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 法人内にて連携をとり、適切なサービス利用に努めている。		
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) グループホームへの見学や、行事参加などもして頂き、スムーズに利用できる様にしている。 (外部評価) 入居前、職員は、ご本人を訪ねたり、事業所に来ていただき関係を作っておられる。入居間もない頃は、馴染みのケアマネージャーの方に来ていただき、協力を得ることもある。一週間くらいの間は、ご家族に毎日電話をかけ、ご本人の様子を伝え、意見や希望等を聞くようにされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 生活全ての場面において、一緒に行い、一緒の時間を共有するようにしている。また、畑作り、手芸などで昔得た知識や経験を生かせる場面を多々作るようにしている。 (外部評価) 職員は、畑作りや調理等、利用者から教えてもらい、一緒にされている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 出来る限り声を掛け、行事参加をして頂いたり、日々の生活の様子を送付し、疎遠にならないように支援している。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価)		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 今までのかかりつけ医をなるべく変更せず、なじみの地域で暮らせるよう支援している。また、美容院やカラオケ教室など今までの生活習慣もそのまま継続できる様にしている。		
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士の関係性を観察し、日々の生活が心地よく過ごせるよう支援している。また、意思疎通が困難な利用者には職員が橋渡しするようにしている。		
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 法人内でのサービス変更であれば、行事参加などをして付き合いを継続している。法人外であれば難しい面があるが、家族の電話連絡や相談を行っている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)		
			日々の生活の中で、細かく観察を行っている。また、センター方式の書類を個人ケースに挟み、職員がいつでも閲覧、書き込みをできる様にしている。		
			(外部評価)		
			センター方式の書式を用いて、利用者個々の思いや暮らしの希望等の把握に努めておられる。新しく入居された方については、冷蔵庫にシートを貼り、職員が日々、気付いたことを記入できるようにされている。		
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)		
			初回の面接時や、サービス開始時に本人、または家族にじっくり聞くようにしている。また、担当のケアマネージャーからの情報も聞くようにしている。		
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価)		
			日々の暮らしで注意深く観察を行い把握している。また、センター方式の書類を個人ケースに挟み、いつでも職員が書き込めるようにしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価)		
			ユニット内にノートを設置し、利用者が言ったことなどを書き留め、職員が共通した情報を共有できるようにしている。また、カンファレンスを実施し、職員の対応等を統一できるようにしている。		
			(外部評価)		
			介護計画は、ご本人の希望や職員の意見を採り入れ作成されている。医師の指示を計画に反映する場合もある。遠方のご家族には、2ヶ月に一度、計画書を郵送して意見を聞くようにされている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価)		
			少人数でも職員同士でも話し合い、計画を変更している。		
			(外部評価)		
			介護計画は、毎月評価し、見直しされている。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)		
			日誌の時間は時間をしっかりとつており、記入している。また日々のバイタルチェック表の備考の欄には、入浴や、散歩など関わった職員しか分からない気づきを記入し、日誌記入の職員が漏れの無い様に記入している。またカンファレンス時にも活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価)		
			緊急受診、また定期受診も場所柄家族の付き添いが困難な事が多いため、グループホーム側が行っている。		
			(外部評価)		
			事業所では、病院受診時の同行や、ご家族の来訪時の港から事業所までの送迎等もされている。又、ご本人の希望により通院途中に自宅の庭先に立ち寄ることもある。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進会議にて意見や情報交換をしている。		
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の意向があれば行う。またパン教室や、訪問エステなどを実施し、Q Lの向上に努めている。		
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 権利擁護については検討中。地域包括支援センターとは協力していく必要あり。		
43	18	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 通いなれたかかりつけ医の受診を継続できるよう支援。また場所柄、家族の付き添いが困難な場合多いため、通院介助はグループホーム側が行っている。また2週間～1か月に1回は必ず定期受診を行っている。		
			(外部評価) ご本人の希望するかかりつけ医を受診されている。広島県からの利用者も多く、フェリーで広島市内の病院に通っておられる方もいる。		
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力医は認知症に詳しく、積極的に助言を頂いている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 訪問看護ステーション等は利用していないが、かかりつけ医の看護師とは受診時等に積極的にアドバイスを頂いている。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には、必ず管理者が付き添い、入院先のスタッフに生活の様子などを細かく報告し、入院生活に活かして貰うようにしている。また、入院中に見舞ったり、家族との連絡を密に行っている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) (外部評価) 事業所では基本的に看取り支援は行わないこととされており、病院への入院や法人内の施設への移行をスムーズに行えるよう支援されている。ご本人の病状等が悪化した時には、ご家族も一緒に医師の説明を受け、今後のことについて話し合われている。		
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 利用者や家族の意思を尊重している。また、かかりつけ医とも連携を密にとっている。		
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 今までの生活が詳しく分かる書類を渡すと共に、慣れないうちは、移り住んだ先の職員や家族との連絡を積極的にとり、アドバイスをしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 朝礼やカンファレンスなどで意識付けを十分に行うと共に、気になったときは、その場で助言や注意を行っている。また個人情報については、契約時に家族にサインを頂いて、必要時以外は外部に漏らさないこととしている。		
			(外部評価) 調査訪問時、トイレの使用時等、利用者のプライバシーを守るとい点から、配慮が必要と感じる場面が見受けられた。		この機会に利用者の立場に立って、職員が日頃行なっている利用者とのかわり方について、点検する機会とされてはどうか。貴事業所のさらなるケアの質向上に向け、「尊厳を守る」という観点から話し合ってみてほしい。
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 日々の暮らしの中で、利用者と積極的に会話をして、小さな事でも利用者の意思を尊重している。		
52	21	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のその瞬間の意思を阻止を尊重している。また、今までの暮らしを尊重し、心身や他の利用者に支障が無ければ特に制限はしていない。		
			(外部評価) 調査訪問時、介助や声かけ等、職員の利用者へのかかわり方について、職員の都合が優先となってしまうような場面が見受けられた。		さらに利用者一人ひとりを尊重し、個々がその人らしく暮らし続けることができるよう、職員のかかわり方に配慮が期待される。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 朝の身だしなみは個人のペースに合わせて行き、必要時は介助を行っている。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 力を発揮できる場面のひとつとして位置づけ、個人の能力に合わせた参加を促している。また、メニューは大まかには決まっているが、利用者の希望にも合わせ、臨機応変に対応している。 (外部評価) 職員は、交代で休憩時間中食事するようになっている。献立は、管理者が立てておられ、週3日くらい、利用者希望のメニューを採り入れている。		利用者個々が、おいしい食事をさらに楽しむための工夫について、この機会にすべての職員で話し合ってみてほしい。又、食事時の雰囲気や職員のかかわり方についても、さらに配慮が期待される。
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 嗜好品を散歩がてら、一緒に買いに行ったりしている。またお酒やタバコなども、心身に支障が無ければ制限はしていない。		
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 24時間を1時間単位に区切り、その中でも4区分に分け、職員が一目で分かるようにしており、次のトイレ誘導のタイミングを逃さないようにしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価)		
			大まかには決まっているが、利用者の希望にあわせ、随時介助している。またどうしても困難な場合は、足浴、清拭などで対応している。		
			(外部評価)		
			事業所の浴槽はひのき風呂で、地元で取れるレモンやみかんを湯に浮かべ、香りを楽しまれることもある。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価)		
			夕食後から就寝までの時間をゆっくりとっており、お勤めや、足浴など、安眠に繋がるような事を職員同士で話し合い、積極的に行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価)		
			役割が義務的にならないよう、利用者が楽しみながらできる様に声掛けに工夫をしている。また、感謝の言葉を忘れず、利用者の満足感に繋げている。希望を聞きながら実施し、楽しみ、気晴らしに繋げている。		
			(外部評価)		
			毎月、事業所にパン教室や訪問エステの方が来てくれるようになってきている。又、法人の温水プールを利用される方もおられる。日頃は畑作業や家事をされたり、趣味の手芸やカラオケ等を楽しまれている。調査訪問時、食前には体操されたり歌を歌っておられた。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)		
			契約時に家族に説明し、少額の小遣いとして預かり、預かり帳をつけ預かっている。また、自己管理を希望する利用者には自己管理をして頂いている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			買い物や、散歩だけにとどまらず、地域行事に参加している。また、ドライブも日常的に行っている。また長距離の移動が困難な利用者にはベランダでの食事やおやつなどを支援している。		
			(外部評価)		
			日々、散歩に出かけられたり、おやつ等の買い物・通院時にドライブをすることもある。		
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			花を見に出掛けたり、自分の家や畑に行って見たいなど、出来る限り支援している。また、遠出の際は、職員の勤務を調整して安全面にも配慮している。		
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		
			支援している。制限はしていない。また年賀状は欠かさず出している。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			面会時間は設けていない。家族が自由に来て頂けるようにしている。また、場所柄、交通の便が悪く、希望があれば面会時の送迎を行っている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修は検討中。身体拘束は行っていない。		
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 極力鍵は掛けないようにしている。また以前は施錠していた箇所も、話し合いで見直しを行い、開錠している。現在やむを得ず玄関を施錠している。 (外部評価) 外からは自動ドアで開くようになっているが、事業所内から外に出る時は、「押す」というように表示されている部分を押し、ドアが開くようになっている。押し、外に出られる利用者の姿がうかがえた。		
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は、常に職員が2人以上フロアに居る体制をとっている。また夜間は、両フロアが見通せる事務所内で見守りを行っている。		
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 認知、理解、判断力全てにおいて低下している利用者が居るため、直接害を及ぼしそうなもの(刃物、薬品など)の管理は徹底している。		
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハットが発生したら、必ず申し送り、職員が情報を共有すると共に、今後の事故防止に向けて話し合いをしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 消防署の協力を得て、心肺蘇生法の訓練をしている。また、月に1度の研修会でも勉強している。		
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署に協力を得て、利用者と一緒に訓練を行っている。 (外部評価) 事業所の所在する島では、災害時通報システムが確立されている。自主訓練や消防署の協力を得て避難訓練を行ってられる。「防災体制マニュアル」を作成しておられる。		地域住民や地元消防団員との連携を図れるよう、働きかけていきたいと考えておられた。又、地元の消防団の方に事業所の構造や、利用者の状態等を伝えていきたいと考えておられた。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 利用者の状況が変化すると(熱発など)家族連絡を行っている。また、家族が混乱しないよう、連絡は管理者と、計画作成担当者が行うように徹底している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 変化があれば必ず、バイタルチェックを行い、日誌に記入すると共に申し送りを行い、職員が情報を共有している。また、変化が継続すればかかりつけ医を受診している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>(自己評価) 服薬を一覧にしており、病院から頂く一覧を個人ケースに挟み、いつでも見れるようにしている。また、処方の変更になれば申し送りノートに記入し、情報を共有している。</p>		
75		<p>便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 食材の工夫や、活動を増やしたりなどで自然排便を促している。また、かかりつけ医と相談し、薬なども調整している。</p>		
76		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>(自己評価) 個人の口内状態に合わせた口腔ケアを行っている。また、チェック表をつけており、漏れの無いようにしている。</p>		
77	28	<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>(自己評価) 毎日、摂取量のチェックを行っている。また、摂取状況に合わせて、メニューや形態の変更を行っている。定期的に法人内の栄養士にて栄養管理を行っている。</p> <p>(外部評価) ミキサー食の方もおられる。健康状態に合わせて塩分や栄養面でも配慮されている。ご自分で飲める方はペットボトルに白湯を入れ、居室でも水分補給できるようにされている。</p>		
78		<p>感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>(自己評価) 感染マニュアルを作成している。また利用者には家族の了解を得て、職員は必ず予防接種を施行している。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板、布巾などは夜勤者が漂白している。また、食事は適量を作るようにして余りが出ないように作っている。また残り物は日付を記入し、早めに使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関先には日常生活の写真を飾り、誰でも閲覧できるようにしている。また庭園に力を入れており、地域の方も楽しめるようにしている。		
81	29	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ベランダにはひさしを置き、強烈な光が差し込まないようにしている。また、折り紙等の作品は居室に飾り、共同のフロアには行事の写真を飾り、みんなが楽しめるようにしている。 (外部評価) 日中、利用者が過ごされることの多い居間は、木のぬくもりが感じられ、天井が高く天窓から自然の光が入るようになっている。事業所の前には山、裏には瀬戸内の海が広がり、自然と季節感が味わえる。		
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ベランダには椅子とテーブルを置き、いつでも使用できる様にしている。また和室もあり、心安らげる空間を作っている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			持ち込み可能な為、利用者や家族に積極的に話をしている。持込については特に制限はなし。		
			(外部評価)		
			趣味の手芸品を飾っておられる居室もうかがえたが、しつらえに工夫が必要と感じる居室も多い。方針として壁に釘を打つことはできず、掛け時計も下に置かれている。		事業所では、ご家族来訪時の写真等も居室に掲示していきたいと考えておられる。ご本人・ご家族・職員等で話し合わせ、個々の居室の環境が居心地のよい空間となっているか、点検する機会とされてみてほしい。
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)		
			24時間の換気扇にて対応。また、掃除時には窓を開け、換気を行っている。室温にも配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			手すりの位置などに配慮し、安全に暮らせるようにしている。また、ハード面ですぐには、改善が困難な場合は職員がフォローしている。		
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			利用者の目線に立ち、どこが難しいかを観察し、改善に努めている。また、ハード面ですぐには改善が難しい箇所は、職員がフォローしている		
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			ベランダには椅子とテーブルを置き、くつろげるようにしている。また、空き地には畑を作り、野菜や花を育て、昔の知識や経験を活かせるよう、また楽しみながら暮らせるようにしている。		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ② 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用開始時などに、利用者と家族の意向を聞いている。また変化にも対応できるよう、日々の暮らしの中で積極的に利用者とは話をし、利用者の意思を汲み取り、生活に活かせるようにしている。しかし、職員によって対応がまちまちなどあり。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	入浴や、夕食後かせ就寝前にゆっくりと時間をとり、リラックスした状態で話を聞くようにしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自己にて生活リズムが作れる方には本人の意思を尊重している。自己にて生活リズムを作るのが困難な方には、職員が介助を行っている。その場合には、やや職員のペースになりがちの部分があり。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	何も働きかけがない時よりは、職員の働きかけによって表情が違っているように感じる。またその逆(利用者が混乱してしまう)場面もあり。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	全ての希望をかなえることは難しいが、可能な限り実現に向けて、努力している。またドライブ、買い物等は日常的に行っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	場所柄、設備の整った病院への通院は難しいが、通いながらかかりつけ医を受診することにより、報告や相談をスムーズに行えるようにしている。また受診時の付き添いが困難な場合にはグループホーム側が行うようにしている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者のその瞬間の気持ちを大事にし、臨機応変に対応できる様にし、実現に向けて努力している。どうしても実現困難な場合は十分に声掛けを行っている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時には利用者を含めた話しを行える時間を設け、ゆっくり話すようにしている。また、利用者に変化があった場合には電話連絡を必ず行い、その時にも家族の気持ちを聞くようにしている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ③ たまに 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 4 ほとんどない	散歩時や、地域行事時には積極的に声を掛けて頂くが、訪問までには至っていない。地域への啓発が必要。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	(自己評価) 1 大いに増えている ② 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議を通して、近隣の福祉センターの相談員とも交流が増えている。
98 職員は、生き生きと働いている	(自己評価) 1 ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の個性を活かしながら働いていると思われる。また、知識を吸収しようという態度の職員も多く居る。
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の力不足、または法人の取り決めによってかなえられないことも多々あり、満足しているとは言えないことも有り。ただ、可能な限り実現できる様にしている。日常生活では穏やかな表情が多い。
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己評価) 1 ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時などに、「ここで暮らせてよかったです」「元気になりました」などの言葉を頂くこともある。ただ、料金や、交通の便の悪さについての指摘を頂くこともある。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

畑作り、食事、手芸などで昔獲得した知識や経験を活かすような場面作りを多く提供していると共に、必ず利用者と一緒にいき、一緒の時間を共有できるようにしている。また、家族との関係が疎遠にならぬように、日々の生活の様子を1日ごとにまとめたものや、行事や日々の写真を請求書、法人全体の広報誌(新聞)と一緒に送付している。また、場所柄、交通の便が悪く、家族の付き添いが困難なため、病院介助はグループホーム側が行っている。また、面会時も希望があれば、最寄の港まで送迎を行っている。法人内にて多数の事業所を抱えているため、各事業所の行事に参加したり、また、グループホーム側の行事にも招待している。また、利用者、家族の希望により、各事業所の紹介を行っている。